

第4回広域連携かながわ図上訓練実行委員会議事録

記録：尾崎徳久

日時：2019年9月19日 19:00～20:45

会場：かながわ県民活動サポートセンター11階講義室

出席者：尾上昌毅（FAJ）、舛田悦子（KSVBT）、勝海仁（たてき）、守屋貴大（関東学院大）、高松清美（よこはま七つ星）、赤間大河（関東学院大学）、小林綾乃（関東学院大学）、松田幸弘（関東学院大学）、佐野初美（茅ヶ崎市民活動サポートセンター）、中原新太郎（）、赤間篤（神奈川県社協）、田代翼（個人）、菅尾尚彦（かながわ県民活動サポートセンター）、上田文夫（神奈川県社会福祉士会）、沢田健介（神奈川RB）、尾崎徳久（神奈川RB）

種別：定期実行委員会

資料：出席者名簿（写し）、アンケート回答（写し）

議事：

台風15号の被害：千葉/神奈川の状況(共有)

横浜市金沢区：ボラ活動(3日間)

図上訓練の内容…3～5年計画

【2日間の予定(案)】

1日目(金曜)：基調講演、災害想定(千葉・神奈川)/ワーク 振返り

2日目(土曜)：参加団体の活動報告、パネル(展示)

課題(地域ごと)に対して、協力体制

振返り・総評・検証 次年度に向けて

JVOAD 震つな

県危機管理課 県民センター

プレーヤー：話し合い(ワークに参加する人)

ビジター：様子を見学する人

話し合ってほしいこと

被害想定 参加者に被害のどんな事を判ってもらえるのがよいのか？

どんな事例？

(顔の見える関係・受援力の強化)

上記に関してワーク・・・

どれだけの被害がでてきているのか？

どう支援するのかという技術

ライフラインの確認

防災アイテム(携帯バッテリー)

被災者との連携：4者連携(地元住人同士のつながり)

大震災以外にも身近リアルな事例

ニーズをどう拾いに行くのか？(アウトリーチ)

高齢者など→地域の事は地域(住人)に聞け！

物理的被災、心理的ニーズ＜アプローチの仕方

1か月後200万人避難

1日の食糧・必需品の換算を試みる。

電気がない中での情報収集

都会と田舎での関係づくり

共助(関東地域内での手助け)

被災者がどこに自分の情報を発信したら良いのか判らない。

ニーズ調査をどう行うのか？

想像力……自分事として考えられる。

開催予定：年4月17・18日？24・25日？

開催案内：年12月にできるように

後援依頼：

次回の実行委員会で詳細に分科会にて

ホームページ：新ホームページの紹介

想定よりも遅れている。

プログラム作りに注目する(固める)

進行スケジュールコアメンバー)

ワーキンググループプログラムづくり) 実行委員会

月の実行委員会(分科会)

次回開催予定日：10月17日(木) 19:00～

以上